

【山崎主宰の俳句】

くらりぐらり

山崎 聰

ともだちのともだちおうい牛蛙
父の日の平穩無事を訝しむ
白南風の遠い国から来て次郎
ひとりならついておいでよひきがえる
海の日海の出口が見つからぬ
頸椎を伸ばして虹の根のあたり
旅の駱駝も大東京も暑氣中り
八月の通り過ぎたる顔いくつ
晩夏晩節ひとりぼっちという快樂
炎日をくらりぐらりと一の坂